公益社団法人 日本技術士会
The Institution of Professional Engineers, Japan

会報　　第５号
発行日　平成 26 年 8 月 8 日 発行人　公益社団法人 日本技術士会群馬県支部 広報委員会

支部長メッセージ

平成25年度の群馬県支部事業報告と決算報告について

公益社団法人　日本技術士会　群馬県支部　支部長
加藤　洋(機械・経営工学・総合技術監理)

公益社団法人日本技術士会群馬県支部では、平成 26 年 3 月 22 日に本部総務課より送付されて来た群馬県支部決算報告書を、3 月 28 日の支部役員会で承認する事により、平成 25 年度の群馬県支部の事業を終了しました。

平成 25 年度の群馬県支部の事業は、平成 24 年度末の幹事選出選挙で、選出・信任された 15 名の幹事により、計画・実行しました。　以下、平成 25 年度の群馬県支部の事業報告と、決算報告、さらに平成 26 年度の支部事業計画と収支予算について掲載しました。

自民党政権になり、アベノミックス「三本の矢」（第 1 の矢：大胆な金融緩和⇒市場のお金を増やしてデフレ脱却、第 2 の矢：機動的な財政政策⇒約 10 兆円規模の経済対策予算によって、政府が自ら率先して需要を創出、第 3 の矢：民間投資を喚起する成長戦略⇒規制緩和等によって民間企業や個人が、真の実力を発揮できる社会へ）で、昨年から景気も上向き、今年になって消費税増税前の駆け込み需要で加速、4 月からの消費税増税による景気の落ち込みを心配する声もありましたが、3 か月経過して景気は維持されています。

群馬県に限れば、平成 25 年 9 月 13 日に「群馬がん治療技術地域活性化総合特区」に認定されました。さらに群馬県は、平成 26 年 6 月 21 日に、「富岡製糸と絹産業遺産群」の世界文化遺産登録決定というビックニュースが飛び込んで来ました。この様に現在群馬県の経済の発展にとって追い風が吹いているように思えます。群馬県の中小企業の皆様が、この風を逃がさない様に、群馬県支部では、時を得たテーマの講演会や、最先端企業の工場

見学、ものづくり補助金申請書のブラッシュアップ相談会を、支部会員だけでなく一般企業や大学、官公庁にもオープンにしていきますので、活用の程、宜しくお願いいたします。

１．平成 25 年度群馬県支部事業報告

（１）役員会開催

・平成 25 年度　第 1 回役員会（平成 25 年 5 月 24 日　実施）
・同　　上　第 2 回役員会（平成 25 年 7 月 26 日　実施）
・同　　上　第 3 回役員会（平成 25 年 9 月 20 日　実施）
・同　　上　第 4 回役員会（平成 25 年 11 月 22 日　実施）
・同　　上　第 5 回役員会（平成 26 年 1 月 31 日　実施）
・同　　上　第 6 回役員会（平成 26 年 3 月 28 日　実施）

（２）主要開催行事

■全体会合（平成 25 年 7 月 26 日）高崎市産業創造館

平成 25 年 7 月 26 日（金）に、高崎市産業創造館で開催し、新役員の紹介と下記事項を報告した。

①平成 24 年度収支について　（大山副支部長）
②平成 25 年度事業計画について　（大山副支部長）
③平成 25 年年度予算について　（大山副支部長）
④平成 25 年度群馬県支部組織運営体制について（加藤支部長）

■講演会（平成 25 年 7 月 26 日）高崎市産業創造館

テーマ：「地震と防災」、演題：「平安時代弘仁 9 年（818 年）年地震による地形変化と災害－赤城山南麓を中心に」を、講師：早田　勉　先生(株)火山灰考古学研究所所長･前橋工科大学非常勤講師で開催した。参加者は一般参加も含め 20 名。

■見学会（平成 25 年 10 月 18 日）

株式会社グランパ(http://granpa.co.jp/)の提携農場である日本基礎技術（株）植物工場ウィズファーム草津(http://granpa.co.jp/news/333)を見学した。参加者は、一般参加も含め 23 名。

■相談会Ⅰ（平成 25 年 6 月 27 日）群馬県産業技術センター会議室

群馬県産業技術センターの会議室で「ものづくり補助金申請書ブラッシュアップ無料相談会」を開催した。19 社の群馬県の中小企業が参加し、支部会員の技術士 7 名が相談に対応して、結果は 7 社が採択された。

■相談会Ⅱ（平成 26 年 3 月 10 日）群馬県産業技術センター会議室

群馬県産業技術センターの会議室で「中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業補助金申請書ものづくり補助金申請書ブラッシュアップ無料相談会」を開催した。7 社の群馬県の中小企業が参加し、支部会員の技術士 6 名が相談に

対応して、結果は2社が採択された。

■その他

広報活動の一環として、支部会報を2回発行しホームページに公開している。

平成26年2月4日に栃木県支部主催の工場見学会に群馬県支部会員3名参加。

平成26年2月24日に群馬県支部のパンフレットを更新（添付資料参照）。

（３）運営上の反省と課題

■支部としての活動は２年目に入り、全体会合、役員会、講演会、見学会、相談会等の事業を実施して来たが、参加者は支部役員が中心で、役員以外の支部会員の参加が少なかった。

■支部独自の会員名簿を会員合意のもとで作成し、支部会員と直接メールや電話で連絡がとれるようにして、より多くの支部会員の方々に支部事業に参画して頂く。

２．平成25年度の決算報告

平成26年3月28日の支部役員会で承認された添付の平成25年度の支部決算書参照。

３．平成26年度群馬県支部事業計画について

■全体会合と講演会を7月25日（金）に、無料相談会を7月28日（月）に、見学会を10月17日（金）に開催する事を決定しました。そして平成27年2月に2回目の講演会を実施する予定です。詳しくは、添付の群馬県支部平成26年度事業計画表を参照下さい。

■平成26年度の役員会の日程を次のように決定しました。

5月30日（金）、7月25日、9月26日（金）、11月28日（金）、平成27年1月30日（金）、3月20日（金）

■会報とは別に、支部会員の経験論文集を平成26年9月に発行し、支部会員全員と、県庁、市役所、商工会、銀行、協賛企業、大学、高専に配布します。

４．平成26年度群馬県支部収支予算について

次ページの支部予算（案）を、本部総務課に提出し、平成26年2月26日の本部支部長会議で了承されました。承認された平成26年度支部予算は、添付の平成26年度支部一般会計収支予算表を参照下さい。

群馬県支部収支予算書（案）

（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）

（単位：円）

科目	26年度予算	25年度予算	差異	備考
Ⅰ事業活動収支の部				
1、事業活動収入				
事業収入	90,000	90,000	0	
参加費収入	90,000	90,000	0	講演会・見学会参加費収入
雑収入		0	0	
受取利息収入		0	0	
雑収入		0	0	
寄附金収入		0	0	
地域組織活動費収入	100,000	100,000	0	
地域組織活動補助費収入	200,000	200,000	0	
講演会・見学会補助費収入	200,000	200,000	0	
事業活動収入計	390,000	390,000	0	
2、事業活動支出				
事業広報費	10,000	10,000	0	
対外的情報発信活動費	10,000	10,000	0	ものづくり相談会
研鑽費	200,000	200,000	0	
講演会・見学会開催	200,000	200,000	0	講演会・見学会3回
各種資料作成費	30,000	30,000	0	
業務推進費	228,900	175,000	▲53,900	
会議費	30,000	30,000	0	役員会6回
旅費交通費	20,000	20,000	0	
通信運搬費	16,000	24,000	△ 8,000	
消耗品費	0	36,000	△36,000	
印刷製本費	111,900	14,000	▲97,900	経験論文特集、支部パンフ、支部封筒（A4と長3）
図書費	0	0	0	
各種会合費	25,000	25,000	0	全体会合
地域委員会活動費	12,000	12,000	0	
雑費その他	14,000	14,000	0	
事業活動支出計	468,900	415,000	▲53,900	
事業活動収支差額	▲78,900	▲ 25,000	▲53,900	
当期収支差額	▲78,900	▲ 25,000	▲53,900	
前期繰越収支差額		298,851		
次期繰越収支差額		273,851		

総務委員会だより

総務委員　佐藤孝史（建設・上下水道・衛生工学・総合技術監理部門）

総務委員会の役割について紹介します。一番重要な役割は会計です。毎年の予算を立て、企画委員会と広報委員会と協議を行い、年度行事等を検討して予算を決定します。そして必要な経費の支払を行います。年度の終わりに決算を行います。

もう一つの業務は、議事録等の作成です。支部の決定機関は役員会なので、役員会の議事録を作成し記録として保存します。さらに、支部事業全体の調整や外部団体との調整や協議も行います。支部の各種会議の準備や会場予約、各種行事に必要な事前交渉、関係機関と協力関係を保つための調整や打ち合わせ等が役割です。わかり易く表現すれば、支部運営全体の裏方的存在とも言えます。

平成 26 年度の第 3 回全体会合が 7 月 25 日に終了し、ホッとする間もなく 28 日には「ものづくり相談会」（中小企業・小規模企業ものづくり・商業・サービス革新事業に係る補助金申請の企業支援）を行いました。

今年度は、「ものづくり相談会」のほか、見学会、講演会などを開催する予定です。企画委員会、広報委員会と協力して成功させたいので、会員皆様のご協力もお願い致します。

企画研修委員会通信

企画研修委員会よりのご挨拶

企画研修委員長　山本　亮一（応用理学部門）

１．H25 年度の活動の振り返り

H25 年度は、以下の 4 回の事業を実施しました。

特に、H25 年度より始めた無料相談会は、国のものづくり補助金に応募を希望する中小企業を対象に、申請書をブラッシュアップするもので、まさに技術士の専門性を発揮した事業です。支部長の強いリーダーシップの元、国の公募スケジュールに対応して、機動的に実施致しました。

(1) H25 年 6 月 27 日(金)　第 1 回無料相談会

(2) H25 年 7 月 26 日(金)　第 3 回 CPD 講演会「防災」(全体会合と同時開催)

(3) H25 年 10 月 18 日(金)　第 2 回 CPD 見学会「植物工場」

(4) H26 年 3 月 10 日(月)　第 2 回無料相談会

２．H26 年度の活動

H26 年度は、本企画研修委員メンバーでの活動の、2 年目に入ります。昨年度は、このメンバーでの初年度の運営と云う事もあり、若干不慣れな所も有りましたが、本年度は活動をより活発化させて行きたいと思っています。

本年度は、下記 4 回の CPD 事業を企画しております。

(1) H26 年 7 月 25 日(金)　第 4 回 CPD 講演会「群馬がん治療技術地域活性化総合特区」(全体会合と同時開催)

(2) H26 年 7 月 28 日(月)　第 3 回無料相談会

(3) H26 年 10 月 17 日(金)　第 3 回 CPD 見学会「ミニマルファブ技術」(於つくば市)

(4) H27 年 2 月頃　第 5 回 CPD 講演会「テーマ未定」

現在、第 5 回の講演会テーマが未だ決まっておりません。この回は、シビル・エンジニアリング関連のテーマにしたいと思っております。是非、テーマ案のご提案を頂ければと思います。(山本：電子メールアドレス： ad3r-ymmt@asahi-net.or.jp)

３．終わりに

最後に、毎度同じで恐縮ですが、本委員会より会員の皆様に、各行事への積極的なご参加、企画委員会への参画、運営サイドとしてのご協力、をお願いしたく思っております。特に来年 3 月には、役員改選となります。会員の皆様には、企画委員会へのご参加をお願いに上がる事もあろうかと思います。よろしくご協力お願いします。

広報委員会だより

広報委員　二川 真士（機械部門）

日頃より、群馬県支部の活動にご協力戴き有難うございます。広報委員会を担当させて頂いております二川と申します。

さて、４月からの消費税値上げの影響も、今のところは想定内と言われておりますが、皆様の活動に於かれましては如何でしょうか。アベノミクスの第三の矢である「日本再興戦略」に盛り込まれた施策を確実に実行し、日本経済を再生し、産業競争力を強化することを目的に、平成 26 年 1 月 20 日に産業競争力強化法が施行されています。これに基づき、中小企業や小規模事業者、さらには、創業・ベンチャーにまで、助成金を始めとする様々な支援策が実施されております。例えば、いわゆる「ものづくり補助金」に於いては、対象となる事業が商業・サービスにまで広がり、さながらビジネスプランコンテストの様相を呈しているとの話もあります。逆に言えば、アイデアがあれば新しい事業に乗り出すチャンスであるとも言えます。ただし、新しいアイデアや基礎研究があっても、それを具体的な製品やサービスにするには、必ず技術が必要です。実際にそれを生み出す側であれ、支援や評価する側であれ、ビジネスの種を開花させるために、今求められているのが技術に対する広い見識をもつ技術士の目利きの力だと思います。即ち技術士として社会貢献する場がそこにあり、環境は整いつつありますが、そのためには技術士の知名度を上げて行く事が必要です。

そこで、群馬県支部では、技術能力と実績をアピールする手段として、皆様の経験論文を募集中です。これを「社団法人　日本技術士会群馬県支部　経験論文集」として発行し、協賛企業、県庁、市役所、商工会議所に配布することを予定しております。会員の皆様に於かれましては、是非、この趣旨にご賛同・ご協力を戴き、奮ってご応募戴くようお願い申し上げます。今回は第 1 回ですが、今後、毎年継続して募集して参ります。

●募集期間（一次締切）：平成 26 年 8 月 15 日（金）

●発行日：平成 26 年 9 月 12 日（金）

●提出先：下記の【メールアドレス】に論文原稿をメールに添付して、お送り下さい。

公益社団法人　日本技術士会群馬県支部・広報委員会　辺見　PXK10171@nifty.com

※募集詳細は、「公益社団法人　日本技術士会群馬支部」のホームページから「お知らせ」をご覧下さい。テーマ例、ページ数、字数、写真、図などにつての詳細を記載しています。

また、会員の皆様にとって有益な講演会・見学会・技術相談会等の自主事業の情報提供、並びに会員相互の情報交換の場として、県支部メーリングリストの立上げを予定しております。支部活動活性化のため、こちらも皆様のご理解とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。次回の募集はホームページ等でお知らせ致します。

<<編集後記>>

資格取得のメリットは、資格そのものに加えて、目指す過程での時間のやり繰りや自分なりの結論を導くことなど、正に血となり肉となってその後の業務に活かすことができると感じています。子育てをしながら親になって行く（課題を解決しながら成長して行く）ことに似ているかもしれません。より高見を目指して、チームワークを重んじ、以前とは異なる方法（アプローチ）を試みる等々、可能なことはたくさんあります。会社や組織にとっての財産であり、個人にとっても、交流の場が拡がります。「地域社会（地元，家庭でも）に何ができるだろうか？」と自問の日々です。謙虚に、弛（たゆ）まず積重ねをして行こうと思っております。

【広報委員　大谷（おおや）　恵（さとし）（機械部門）】

広報委員会	
委員長	辺見　勇　（機械）
委員	二川　真士（機械）
委員	大谷（おおや）　恵（さとし）　（機械）